

教育目標		「生きぬく力」をつけ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで心身共にたくましい児童を育成する。					総合評価
運営方針		豊かな心を持ち、夢や目標に向かってなかまと共に主体的に学習する子を育てる。					B
25年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			
落ち着いた雰囲気の中で学習ができてつある。ときめきタイムや基礎基本の時間を系統立てて実施するとともに、長期休業や放課後の補習体制を確立した。通常の授業においては、研究授業を継続し教員のさらなる資質向上を目指す。外遊びチャレンジにも多数参加する等、体育活動への意欲付けができた。生活面では、今後もさらなる挨拶運動の励行や規範意識の向上を図る。安全管理については再確認をし、意識を高める。		豊かな心を育成するため、感性や集中力を高める工夫を行う。		あいさつの励行。心に響く道徳教育・読書活動の推進。規範意識を高める。			
		児童の確かな学力の向上をめざし、学習内容や指導方法の改善を行う。		夢や目標に向かって根気よく学習に取り組む児童を育て、「分かった」「できた」喜びを味わえる算数科の授業を実践する。			
		命を大切にし、自ら進んで運動に親しむ態度を育成する。		体育学習を中心に様々な運動に興味をもたせる。生活習慣を見直し改善する。食育の推進を図る。			
		教育環境の改善のため、家庭、地域社会との連携を深める。		保護者や地域社会との情報交換。地域ボランティア・学生ボランティアの導入。保幼小中の連携強化。			
		児童の可能性を信じ、絶えず伸ばそうとする教職員集団を作る。		計画的・継続的に研修を推進する。互いに高め合える教職員集団を作る。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育課程 学習指導	全国学力テスト・県学力テストで平均点以上を目指す。	学年毎に目標読書冊数を設定するとともに、市立図書館と連携し読書活動の充実を図る。	A	B	市立図書館との連携を深め、読み聞かせや調べ学習を通して読書活動に対する意欲が高まりつつある。	市立図書館との連携をさらに充実させ、全体的な読書意欲の向上を目指す。学力の二極化を解消するために、補充指導発展指導に努める。	・「分かる」「できる」授業は、子どもたちの学習意欲を高めるものである。今後も様々な指導方法で、子どもたちが生き生きと活動できる取組を継続していけると良い。 ・算数科を中心に研修を進めていくにあたっては、その授業でねらいとすることをはっきりとさせ学習活動を組み立てていくことが大切である。 ・子どもたちが自ら見通しを立てふりかえるような問題解決型学習を進めるとともに、基礎・基本の力を確実に定着させる学習にも継続して取り組んでいくこと。始業前の読書活動、基礎基本の学習時間、放課後学習、家庭学習の時間を有効に活用する。 ・大勢の人の前で発表したりスピーチをしたりする機会を多くしているのは良い取組である。このような経験を重ねていくことが、将来、自分の考えをしっかりと表現できる力につながっていくだろう。さらに、きちんと聞く力をつけることによって、相手の考えを受けとめながら互いを高めっていくことができると考えられる。
	コミュニケーション能力の育成・向上に努める。	学級朝の会・英語学習・集会など、スピーチの機会を多くする。	B		児童会、委員会活動での工夫が相乗効果を生んでいる。	児童が自主的に活動する手だてを工夫するとともに、授業をはじめ、集会や委員会を発表の機会として活用する。	
	豊かな心・たくましい体を育てる。	年間35時間の道徳の時間を中心に、心に響く指導を行う。	B		道徳ウォッチングはそれぞれの力量を高める良い機会となった。	心に響く道徳の授業づくりと五夢りんピックの充実、外遊びチャレンジの推進。	
		楽しい体育学習や外遊びチャレンジへの参加を通して、運動が好きな子を8割以上にする。	B		外遊びチャレンジ参加者多数。体育活動への意欲付けができた。		
生徒指導	あいさつ運動を推進する。	地域・保護者と連携し、挨拶の励行に努める。	B	B	校門では元気に挨拶ができるが、その他の場面の自主的な挨拶は、まだ不十分である。	地域や保護者、児童会が連携したオアシス運動のさらなる推進。年度初めより活発な委員会活動を進める。	
	問題行動を予防するための取組をする。	規範意識の向上を図り、いじめ・問題行動の根絶を目指す。	A		子どもたちは落ち着いて行動し、全体的に規範意識も身に付きつつある。	個に応じた指導と問題の共有化。教師間の情報交換と連携の継続。気になる子への対応の充実。	
	家庭や関係諸機関との連携を図る。	家庭教育の手引きを活用し、基本的な生活習慣の定着につなげる。	B		職員間の情報交換・指導統一の効果がでてきている。	「元氣アップ週間」の取組の継続。家庭教育の手引きの活用が課題である。	
		個々の問題に合わせて関係諸機関と連携し情報交換を図る。	A		個々の問題に合わせて関係諸機関の協力を得ながら、対応について話し合った。	「元氣アップ週間」の継続。家庭教育の手引きを活用し、基本的な生活習慣の定着に対する意識高揚への工夫が必要。	
人権教育・特別支援教育	一人一人を大切に取る取組を進める。	人権学習やQU研修を生かして、互いに認め合う学級をつくる。	B	B	QUの結果をもとに、低中高等学校ごとに検討し支援の方法について話し合った。	出会いから学ぶ人権集会や保護者を含めた人権講演会の検討。また、個に応じた指導がさらに充実できるようにそれぞれの支援の方法について話し合っていく。	
		各学期、気になる子についての共通理解を行い、指導に生かす。	B		共通理解後、必要に応じてケース会議を持ち具体的な手だてを話し合った。		
		個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。	B		個に応じた指導に対して職員間の共通理解と対応を心がけた。教師がより高い人権意識をもてるようにする。		
		人権教育講演会等保護者への啓発を図る。	B		「今を生きる子どもたちへ」をテーマに児童と保護者がともに学ぶ講演会を実施した。		
組織運営	校長のリーダーシップのもとに、各分掌が役割と責任を果たす。	校長の学校経営方針を周知する。	A	A	校長のリーダーシップのもと組織としてそれぞれの課題に取り組んだ。	運営委員会や各種部会等組織の充実。互いを認め合い、気軽に話ができる職場の雰囲気づくりに努める。	
		月1回学校運営委員会を開き、学校運営に生かす。	A		学校運営委員会で意思統一ができた。職員数減による参加体制の検討が必要。		
		悩み等を気軽に話し合える職場をつくる。	B		積極的に意見交流ができる職場づくりが必要。報連相を再確認する。		
		教職員一人一人が服務規律を遵守する。	A		様々な場面で服務規程を自覚した行動が必要。		
安全管理	学校事故を未然に防ぐための取組を進める。	各学期、計画的に避難訓練を実施する。	A	A	緊急地震速報による訓練等、安全に対する意識を高められるような指導を実施した。	危機管理マニュアルのさらなる周知徹底。安全点検表の再検討。不審者や帰宅遅滞者への迅速な対応。	
		安全点検チェック表にもとづき、安全点検を毎月実施し改善する。	A		安全点検チェック表をもとに毎月の点検を実施することができた。		
		危機管理マニュアルを理解し、適切に対処する。	B		危機管理マニュアルを随時確認し、自分のものにしていく必要がある。		
研修	計画的、継続的に研修を推進する。	全学級で研究授業を行うとともに授業ウォッチングを随時行い、研修を深める。	A	B	テーマに沿って、様々なアプローチによる授業研修が実施できた。	研修への参加体制の構築。研修の方向性の確認。研修後の協議の充実。	
		校外の研修にも参加し、教員としての資質を高める。	B		安心して校外研修に出かけられる校内体制の充実が課題。		
保護者・地域住民との連携	双方向の情報交換を積極的に進める。	家庭訪問や懇談等で保護者との意思の疎通を図る。	B	B	保護者との信頼関係を築くための家庭訪問の継続が大切。	学校通信の発行による保護者への啓発。PTA活動への呼びかけ。家庭訪問の充実。	
		PTA活動を計画的に推進し、保護者との連携を図る。	B		PTAと連携した行事を実施することができた。		
		学校通信発行や地域教育力の導入等を通して、保護者・地域との連携を図る。	A		通信・ブログ等で、学校の情報を伝えることができた。		